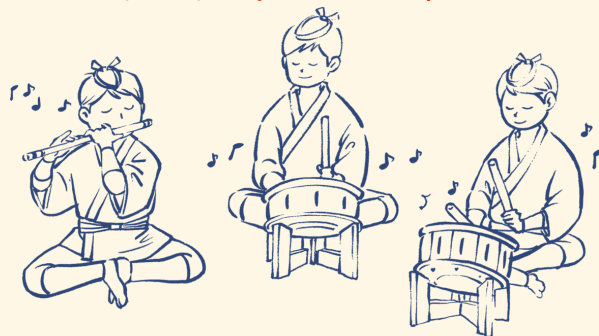


第11回

さいたま

# 伝統芸能普及 フェスティバル



さい  
たま  
市  
に  
伝  
わ  
る  
伝  
統  
芸  
能  
の  
紹  
介  
・  
実  
演

11 / 24  
[日]

## 先人たちが残してくれた「想い」

伝統芸能あるところに昔ながらのコミュニティがあり、  
先人たちが人と人と「絆」を深めるために伝統芸能は地域を活性化してきました。  
そんな先人たちの「想い」を見直してみませんか。  
伝統芸能に親しむ秋をどうぞお楽しみください。  
なお、各団体とも一緒に伝統を継承していくメンバーを募集しております。

### 出演団体



町谷  
囃子連



原山  
囃子連



駒形  
囃子保存会



木崎  
囃子会



浦和木遣  
保存会

### 公演概要

会場 プラザイースト ホール  
開演 13:00 (開場12:30)  
入場 無料・自由

### お問い合わせ

(公財) さいたま市文化振興事業団 プラザイースト  
TEL: 048-875-9933



## 浦和木遣保存会

市指定無形文化財

木遣は、木材や石材を大勢で運搬、移動させるとき等に使われた「労働歌」の一種で、江戸時代に町火消しが組織されてから江戸の鳶職によって発展し、昭和30年代までは「木遣地形」(木遣に合わせて、<sup>きやり</sup>蛸と呼ばれる木製の巨大な地突き棒によって、地面を締め固めた)に、たびたび使われていました。歴史的には労働の際に使われなくなってきた木遣を残そうと、「木遣講」「浦和鳶組合木遣保存会」を経て、昭和41年(1966)に初代会長内田善造氏を中心とした浦和市内の鳶職によって「浦和木遣保存会」が結成された。

昭和49年(1974)4月に浦和市(現さいたま市)の無形文化財指定、平成23年(2011)11月埼玉県より文化ともしび賞の受賞。



## 木崎囃子会

木崎は昔、お祭りといえば農家の庭での盆踊りでしたが、皆で楽しめるお祭りをと、「木崎囃子会」を1986年(昭和61年)に立ち上げ、御室神社でお囃子を演奏しながら屋台を出し、木崎夏祭りを催したのが起源となります。1989年(平成元年)には「木崎子供囃子連」を、1998年(平成10年)には創作太鼓を演奏する「三崎太鼓」を設立し、演奏と人の幅を広げながら、地元木崎のお祭を中心に、市県内外にも活動の場を広げています。浦和八町睦囃子を継承しつつ、2015年(平成27年)から東神田豊島町会のお囃子として神田祭で演奏させていただくことを機に、ご縁のあった曲を自由に取り入れながら、まだまだ若い木崎囃子会の歴史を皆で作っています。子供たちは、おかめ・ひょっとこ踊りや大黒舞・巫女舞にもお稽古を積んでおり、愛らしく踊る姿は、皆さまに喜んでいただいております。



## 駒形囃子保存会

市指定無形民俗文化財

駒形の祭囃子は発祥や伝承などの記述がなくはつきりしませんが、調査報告書(昭和49年度に浦和市教育委員会が行った調査の報告書)によると、駒形の祭囃子は、「江戸系統の祭囃子であるが、「下町囃子」を基調として、これに各地の囃子の特徴を採りこみ、工夫を加えて独特のものとした」ものであり、160年ほど前(嘉永年間1848~1853)に始まったと伝えられています。そんな中で確実に分かっているのが1905年生まれの方が「子供の時には存在していて二十歳の時に年配者に習った」と言っていましたので120年以上前には今の形で伝承されていたこととなります。これだけ古くからのものでありながら近隣町村どころか埼玉県内、都内の囃子を聴いても、駒形囃子と同じものを聞いた事はありませんので、何処から伝わってきたのかわかっていません。



## 原山囃子連

原山まつりでは、樽神輿や持ち回りの神輿を担ぎ、樽をたたき、夏祭りをやっていました。昭和30年代、子供神輿を購入。順次、引き太鼓、大人神輿と購入。昭和63年に地元有志にて、お囃子連を設立し、当初指導者として江戸里神楽、岡田民五郎氏に師事して囃子演奏を行ってきました。平成27年、師から独立して、後進の育成に力をいれています。現在は毎年5月に小学校の体験教室、7月に浦和祭り、八雲夏祭り、8月は原山祭、大在家納涼祭、11月は老人養護施設尚和園慰問、さいたま伝統芸能普及フェスティバル、12月~1月は原山稲荷神社初詣で演奏獅子舞を行っています。現在会員は、子供13名、大人6名です。練習は通年で毎月、第2・4火曜日、第2・3日曜日、夜7時から9時まで原山会館で練習を行っています。



## 町谷囃子連

江戸時代の文献に土合村の囃子方のことが記載されています。土合村の囃子方は町谷在住の方が多く、町谷の人は芸達者とむかしから言われています。

現在は、歴史ある音をしっかりと後世に残すべく、後進の育成に力を入れています。

現在では、若い人材を中心に在籍者は40名を超える大所帯となっています。

笛・太鼓・小太鼓・鉦とオールマイティにこなせる様、練習を重ねています。

囃子を奏でるだけでなく、地域のイベントの計画をたて、祭り以外の行事の中心となり活動もしています。

